環境芳香の与える心理効果の持続性の検討

○ 萩原 彰子 河合 隆史 野呂 影勇 (早稲田大学)

A study on the durability of psychological effect of environmental fragrance
Akiko Hagiwara, Takashi Kawai, Kageyu Noro (Waseda Univ.)

1. はじめに

近年、香りに対する社会的な関心が高まっており、香りの与える生理・心理的影響については広く研究されるようになったが¹⁾、香りの呈示法・演出法に関する研究はあまりなされていない。

そこで筆者らは、香りの呈示法・演出法に関して研究を行っており²⁾、香りの濃度による呈示条件の違いにより心理効果が異なることがわかった³⁾。

本研究においては、香りの持続性を始めとした継時的な心理効果に着目し検討を行った。

2. 目的

環境芳香の人間に与える心理効果について、持続性の側面から検討することを目的とした。

3. 方法

1) 被験者：心身共に健康な大学生10名(男性5名、女性5名)。

2) 測定項目：気分調査票を用いた⁴⁾。これは、ある特定の時点における気分の状態を調査することを目的とした質問票である。質問は32項目から成り立っており、緊張と興奮、爽快感、抑うつ感、不安感の4因子で形成されている。

3) 実験の手順：環境芳香の有無を作り出すために、同体積で隣り合った2種類の実験室を用意し、一方の実験室にラベンダーの香りを呈示した(図1)。又もう一方の実験室は、光脱臭を行った。

各実験室においては、被験者に、数回に渡り気分調査票への回答を求めた(図2)。

図1 実験室レイアウト
(香りの呈示ありの実験室)

図2 実験の流れ

4. 結果

1) 緊張と興奮の変化

ラベンダーの香りを呈示した直後、緊張と興奮は減少した。その後、無臭の状態においてもその効果は持続した(図3)。

2) 爽快感の変化

ラベンダーの香りを呈示した直後、爽快感は増加した。その後、無臭の状態において、その効果は、時間の経過と共に徐々に減少した(図4)。

3) 抑うつ感の変化

ラベンダーの香りを呈示した直後、抑うつ

つ感は減少した。その後、無臭の状態においてもその効果は持続した（図5）。

4) 不安感の変化

ラベンダーの香りを呈示した直後、不安感₁は減少した。その後、無臭の状態においてもその効果は持続した（図6）。

5. 考察とむすび

実験の結果から、以下の2点が考察された。

1) ラベンダーの環境芳香呈示は、安静化方向の心理的变化の影響源となり得る。

2) 呈示後の無臭状態においても、一定時間その効果を持続する可能性がある。

今後は、上記の考察をふまえ、以下の点が考えられる。

1) 異なった種類の環境芳香間での相互作用

2) 他の感覚刺激への香りの随伴について

参考文献

1) 吉田倫幸, 金村早穂: ビデオ視聴時の心理・生理反応に及ぼすセクシャル香の効果, 味と匂いのシンポジウム, pp.235-237 (1990)

2) 河合隆史: アロマを用いた空間演出の心理効果, 第1回アロマセラピーフォーラム'95 講演集(2), pp.3-6 (1996)

3) 萩原彰子, 河合隆史, 野呂影勇: 環境芳香の呈示条件と心理効果, 日本人間工学会第39回大会講演集, pp.218-219 (1998)

4) 坂野雄二, 福井知美他: 新しい気分調査票の開発とその信頼性・妥当性の検討, 心身医学, Vol.34, No.8, pp.629-636 (1994)

図3 緊張と興奮の変化

図4 爽快感の変化

図5 抑うつ感の変化

図6 不安感の変化